

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-4-37
補助事業名 平成24年度（復興支援）被災者に対する生活支援活動補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人POSSE

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

仙台市内には、様々な理由により被災者の入居時期が遅れたために、被災各地から逃れて来た人が寄せ集まって形成された仮設住宅が存在する。そのような仮設住宅の住民は震災以前の地域コミュニティから切り離されているため、阪神大震災時に問題となったお年寄りの孤独死が懸念されている。住民の孤立を防ぐため、住民同士の交流を促す機会を提供する必要がある。

(2) 実施内容

各種イベントの実施



仙台市内の仮設住宅において、住民のニーズやアイデアにもとづいて当法人のボランティアスタッフと仮設住宅の自治会・住民が協力しながら企画・運営した。イベント内容は、主に茶話会、体操・マッサージ。参加費は無料。経済的余裕がない人、身体面の健康への配慮を怠りがちな人が特に参加しやすいイベントになるよう企画。仮設住宅集会所を利用して、住民の誰でも気軽に参加できる憩いの場を提供した。

仙台市内には、様々な理由により被災者の入居時期が遅れたために、被災各地から逃れて来た人が寄せ集まって形成された仮設住宅が存在する。そのような仮設住宅の住民は震災以前の地域コミュニティから切り離されているため、阪神大震災時に問題となったお年寄りの孤独死が懸念されている。住民の孤立を防ぐため、住民同士の交流を促す機会を提供する必要がある。

また、住民の有志からなる世話人会をサポートする形でイベントを企画・運営することで、住民が自発性を発揮できるように促した。一方で、世話人会が主導するイベントは、顔なじみばかりが中心となっていて、参加者が固定化しがちになっていた。新たな参加住民が来やすいように、餅つきや節分の豆まきをしたり、フランス料理をふるまったりと、様々に趣向をこらしたイベントを開催した。

2 予想される事業実施効果

当初は互いに接点がなく、声を掛けるのも難しかった住民間も、現在では盛んな交流が見られるようになった。集会所でイベントを行えば常時20人ほどの住民の参加が見込めるようになり、日中の集会所では住民がお茶を飲みながら語り合うようになった。

イベントに参加する住民の固定化も徐々に解消されていく傾向にあり、新たな参加住民が来やすい雰囲気がつくられるようになってきている

3 本事業により作成した印刷物等

なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 特定非営利活動法人POSSE（トクテイヒエイリカツドウホウジンポッセ）

住 所： 155-0031

東京都世田谷区北沢4丁目17番地15号ローゼンハイム下北沢201

代 表 者： 代表 今野 晴貴（コンノハルキ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

電 話 番 号： 03-6699-9359（事務所）

F A X： 03-6699-9374

E - m a i l： posse_affairs@hotmail.co.jp（事務局）

U R L： <http://www.npoposse.jp/>